

キャリア教育を見極め、 なじませる

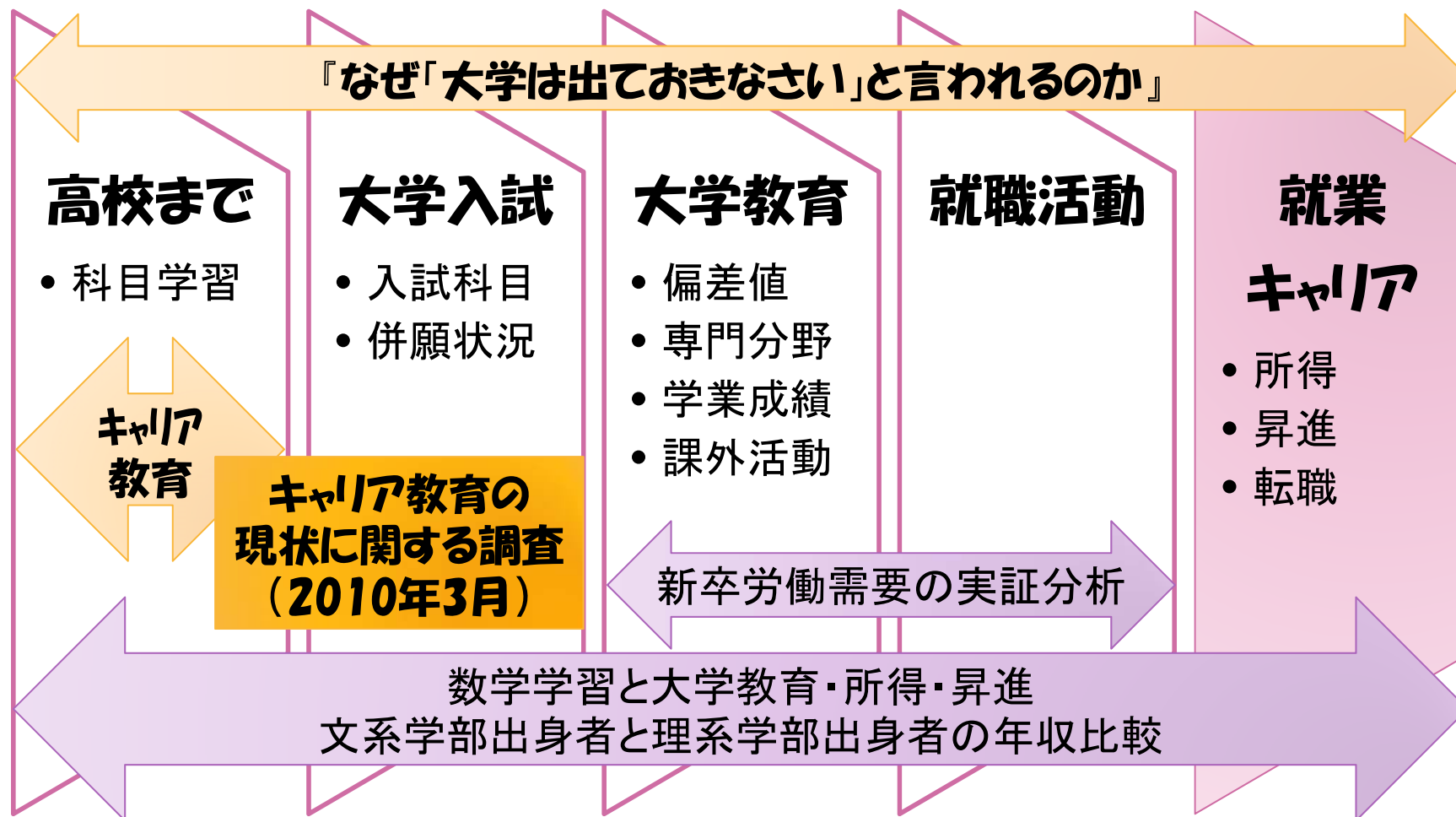
高校教育フォーラム2013

第1日(2013年8月3日)大学の部

同志社大学社会学部 教授 浦坂 純子



私自身の立場と研究関心



お伝えしたいことを先取りするならば

• キャリア教育を「見極める」

- キャリア教育の定義が曖昧で、何をすればいいのか分かりにくい
- にもかかわらず、教育現場に実施を丸投げされている
- そもそも、どうしてキャリア教育が必要なのか理解、納得できない
- キャリア教育と聞いただけで懐疑的な気持ちになる

⇒ 一人一人に自らの人生を考えさせ、キャリアを築いていく力を身に付けさせるのに、決まったやり方が見出せるのか？

• キャリア教育を「(日常に)なじませる」

- キャリア教育といえばインターンシップ(職場体験)、講演会、何になりたいか(キャリアプランニング)、進学先・職業調べ.....
- それだけ？ それだけで十分？ それだけで安心？

⇒ 「いかにもキャリア教育」という取り組みの分かりやすさ、効果と限界

まずお話しする調査では

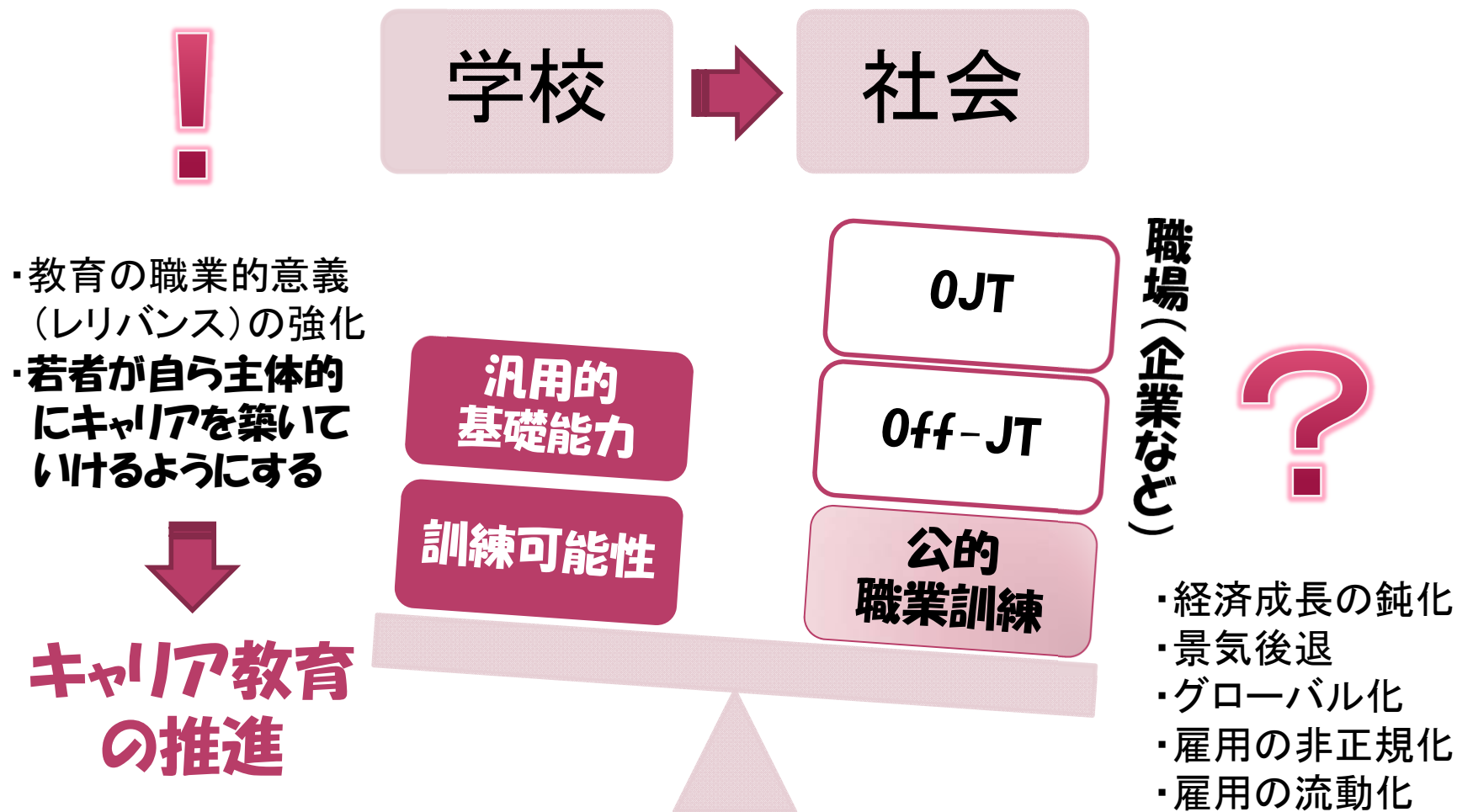
学校教育におけるキャリア教育を**普通
科高校**における実施を中心に考察

＜**連携**＞ 対症的には行き届かない部分について学校以外の力を借りる

＜**包括性**＞ 多種多様かつ継続的な生徒への働きかけを担保する

そのようなキャリア教育が、単発、単独での試みよりも**優位性**を持つ

キャリア教育が必要となった背景



キャリア教育とは何か

中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会答申「**今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方**」(2011年1月)

• **キャリア教育**

- 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
- 勤労観・職業観を育てる教育

≠ (安定した職場に正社員として)就職させるための教育

• **職業教育**

- 一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育

なぜ「普通科高校」に注目したのか

- **キャリア教育を行き渡らせるために**
 - 進路の分岐点(就職に直面する生徒が約3割)
 - 高卒就職者の安定的な雇用機会の減少
- **普通科高校で学ぶ生徒が7割以上**
 - 進学を目指したカリキュラム
 - 働くことに関しては無防備なまま卒業
- **大学・短大等への適用可能性**
 - 特に収容人数の多い文科系学部にも共通する問題
 - 普通科高校の実態を読み解くことで得られる知見から学ぶ

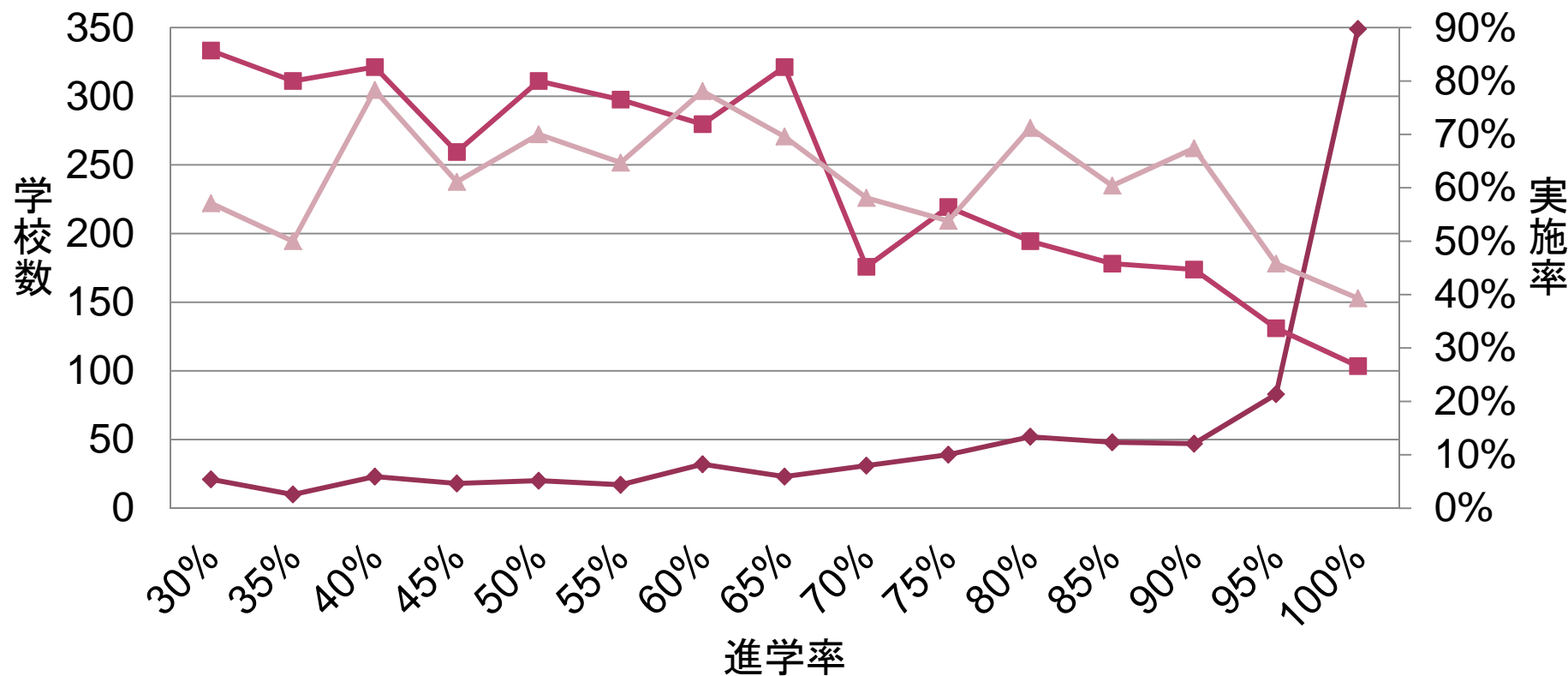
検証したかったこと

- **キャリア教育の実施状況を規定している要因は何か？**
 - 【需要】進学率
 - 【実施可能性】学校規模 } ⇒ キャリア教育
(インターンシップ・知識教育)
 - **キャリア教育は効果があるのか？**
 - 包括的、複合的キャリア教育こそ有効であり、学校ができることである
 - 他との連携が欠かせない
 - 使用したデータ
 - 「**キャリア教育の現状に関する調査**」2010年3月実施
 - 全国の普通科高校3986校の進路指導担当教員を対象
 - **有効回答880校**
- ⇒ **普通科高校のキャリア教育の実態を大掴みにすることが最大の目的**

実態把握1 キャリア教育の需要

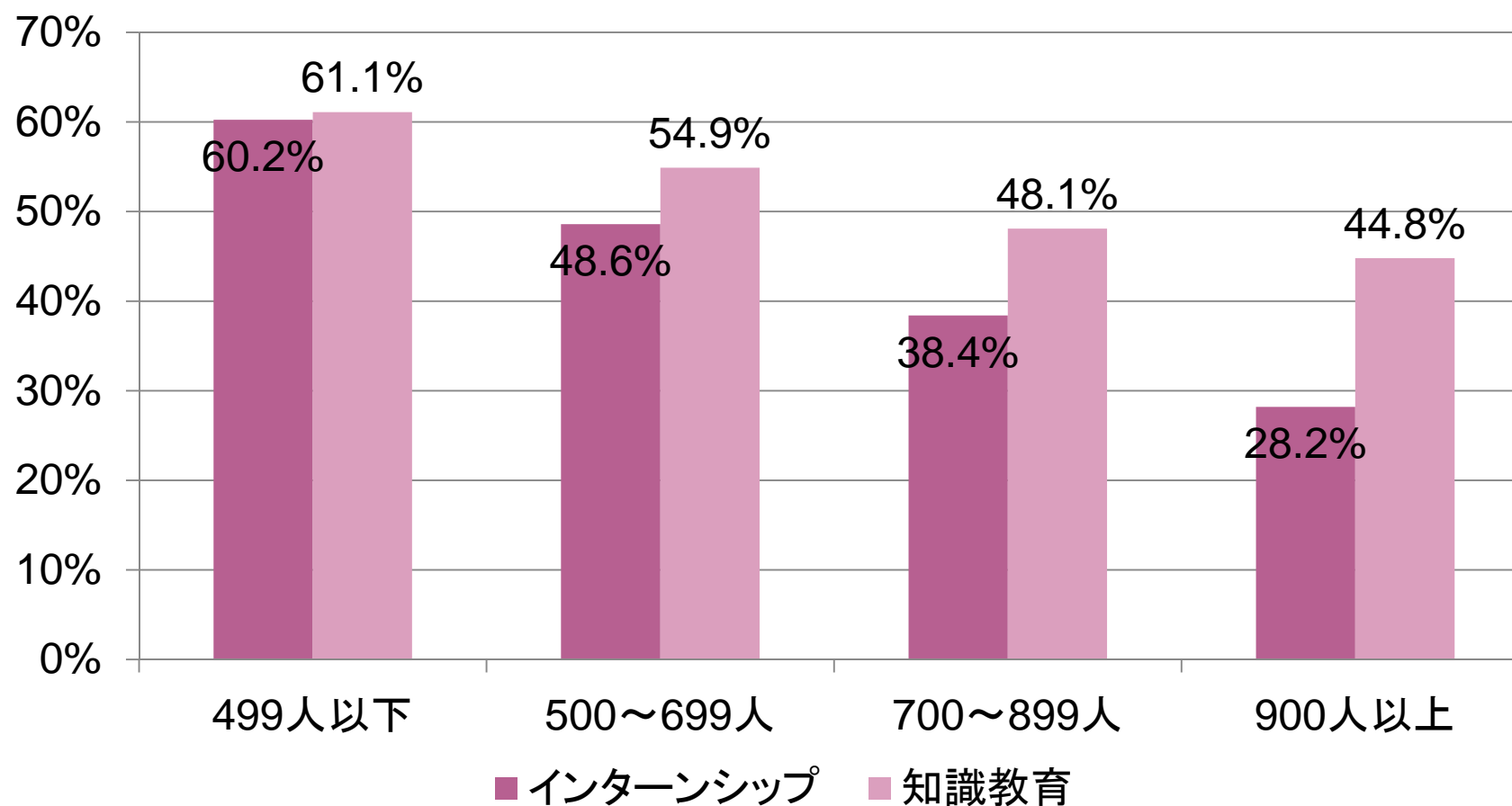
進学率別学校数およびインターンシップ・知識教育実施率

◆ 学校数 ■ インターンシップ ▲ 知識教育

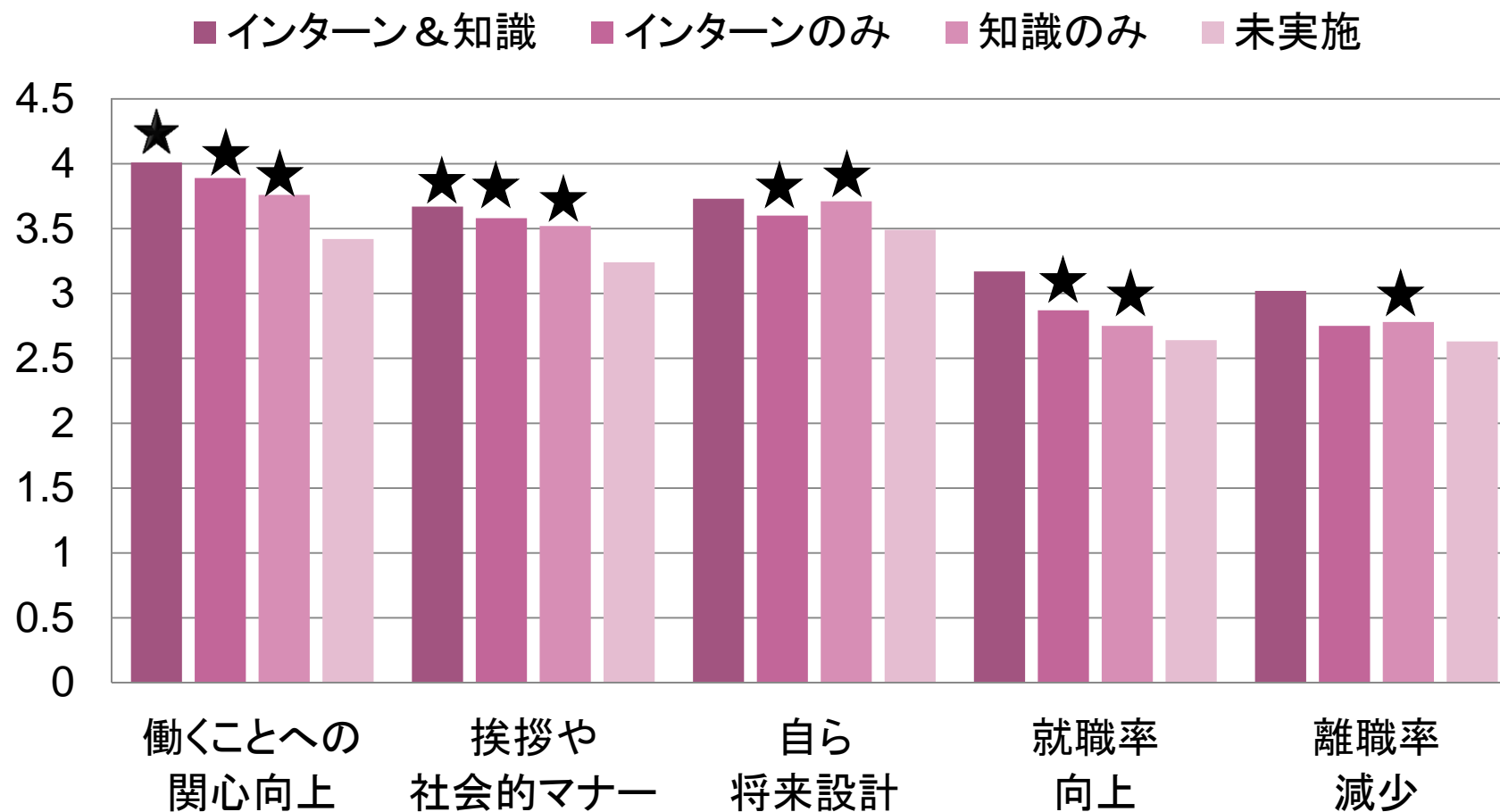


実態把握2 キャリア教育の実施可能性

学校規模(全校生徒数)別インターンシップ・知識教育実施率



実態把握3 複合的キャリア教育の効果



分かってきたこと

- **キャリア教育を包括的、複合的に実施すること**（多種多様）
- **長年のキャリア教育の蓄積があること**（継続性）
- **学校以外の地域や家庭との連携が充実していること**
⇒ 単発あるいは単独の試みよりも優位性を持つ
 - 進学率が高くても、**将来設計**や**就業意識の向上**などをもたらす効果は観察されている
- **「色々やってみる」「続けてみる」の意義**
 - 目の前の生徒一人一人に何が響くか簡単には分からない
 - キャリア教育を見極めるには、多種多様なアプローチをやること、時間をかけて検証し、練り上げていくことが求められる
 - そのためには、学校以外の協力が不可欠
 - キャリア教育の看板がないところでも「色々やってみる」「続けてみる」

政策的に示唆されること

- **家庭**の果たす役割は大きく、より「連携」を深めることが効果的な働きかけにつながる
- 生徒の**同質性**が担保されているほうが、的が絞りに易く、キャリア教育の効率化を促進する
 - 資金面、人材面での支援体制(特に公立高校に対して)
- **専門学科・専門高校**との「連携」強化
 - 地域や家庭と並ぶ「連携」の一つの形
 - 普通科が行き届かない職業指導や進路指導のノウハウ
- より詳細な**地域性**の分析に関しては検討の余地あり

ここまでのまとめ

キャリア教育を「**見極める**」

- **生徒の需要に即したキャリア教育とは？**
 - 連携に支えられた多種多様なアプローチ
 - 生徒の変化をフォローすることで、さらなる工夫や展開、協力体制を整備
 - 「地域性」という言葉一つをとってみても……

キャリア教育を「**なじませる**」

- **正課教育・進学指導・就職指導・生活指導とキャリア教育との関係性**
 - 高校での講演を通じて思うこと
 - カンフル剤の効果をいかに持続させるか
 - 例えば、政治経済の教科書
 - **日常すべてがキャリア教育**

「**学校だからこそできること**」「**学校でなければできないこと**」を
キャリア教育という取り組みのもとで追求

ひるがえって大学では

- **キャリア教育という看板のもと「面倒見のいい就職予備校」化**
 - 大学＝学ぶ立場としての最終ステージ（働く立場へ移行）
 - 高等教育の大衆化／学生の多様化／学生獲得競争の過熱
 - 目先の就活を乗り切ることだけに特化した支援になりがち
 - 一口に大学といっても、事情は様々に異なる
 - 教職員の間で共通認識・情報共有が少ない（温度差が大きい）
 - 効果のほどが分からない／評価されない／もう大人なんだから／就職したらできるようになる／自主性、自己責任、自立……
- **「親切」か「親切ごかし」か**
 - 「はじめてのおつかい」のプロデュース？
 - 卒業したら最後、誰も面倒を見てくれない
 - 面倒を見たからこそ得られる成果とのバランス

迷いながらの試行錯誤

- 「いかにもキャリア教育」も就職支援もあったほうがいい
 - その意図するところを**普通の学生、教職員が普段から**取り組めるように
 - 最低限の学習努力しかしない学生に対する**本当の「面倒見」**
 - 先送りせず気付いたことを一つ一つつぶしていく(徒労感との戦い)
 - **40年以上の働く期間を乗り越えていく力**≡**社会人としての「底力」**
 - 問題意識を持って取り組みを立案
 - 現状を正確に把握するべく下調べを行う
 - 勇気を持って実行に移す
 - 得られた結果を振り返り、総括し、周囲と共有する
- 「どう学ぶか」のプロセス
- **成果の検証ポイントをより後に**
 - 所得、昇進、転職などの**就業パフォーマンス**をフォローする
 - 卒業生の追跡調査(というより「**見守り続ける**」)

参考文献

- 浦坂純子[2009]『なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのかーキャリアにつながる学び方ー』ちくまプリマー新書099
- 同志社大学社会学部産業関係学科編[2011]『“働く”を学ぼうー仕事と社会を考えるー』人文書院
- 橋本祐・森山智彦・浦坂純子[2011]「「キャリア教育の現状に関する調査」報告」『評論・社会科学』(同志社大学社会学会)96号, pp.87-107
- 浦坂純子[2012]「学校が担うキャリア教育・職業教育ー「包括性」と「連携」をキーワードにー」『社会政策』(社会政策学会誌)第3巻, 第3号, pp.25-40
- 橋本祐・森山智彦・浦坂純子[2012]「複合的なキャリア教育の有効性ー普通科高校を例としてー」『社会政策』(社会政策学会誌)第3巻, 第3号, pp.140-148
- 「普通科高校でのキャリア教育はどう行われているのかー「キャリア教育の現状に関する調査」を見るー」『学研・進学情報2012年6月号』(学研教育みらい)第45巻, 第4号, pp.12-15



ご清聴ありがとうございました

jurasaka@mail.doshisha.ac.jp